

# 東扇島東公園でみられる生きもの

## 貝の仲間



◀殻長~4cm▶

### アサリ

食用でよく知られる。殻は厚く色や模様は様々。殻の表面にははっきりとした放射状の筋がある。潮の引いた砂地には多数見つけることができるが水深10m付近の砂底にも多く生息する。



◀殻長~5cm▶

### シオフキ

殻はよくふくらんでいて、丸みのある三角形をしている。色は淡い紫褐色であるが周辺で濃くなる。殻には輪脈がたくさんある。



◀殻高~2.5cm▶

### イボニシ

磯場や干潟で餌となるカキの多い場所がよくみられる肉食性の巻貝。殻は紡錘形で、結節状の螺肋で覆われている。



◀殻高~1.3cm▶

### タマキビ

外海に面した磯場に群がっている球形の貝。殻は比較的厚く褐色で、淡い色の模様が見えることが多い。乾燥に対する耐久力が強い。



◀殻高~15cm▶

### アカニシ

内湾の水深20m位までのところに生息する大型で殻に小さな突起があるこぶし状の貝。



### アカニシの卵塊

ナギナタホオズキと呼ばれ、磯場の岩の陰に多くみられる。



◀殻長1.5cm▶

### カラマツガイ

殻はだ円形で笠状。殻表にはたくさんの放射肋が走る。内面は紫褐色である。



### カラマツガイの卵塊

ゼラチン状の卵塊は黄色く指輪の形をしている。



◀~5cm▶

### ヒザラガイ

岩のくぼみや岸壁で見られる。だ円形の体の中央に8枚の固い殻がはしご状につながっている。



◀体長20cm▶

### アメフラシ

体は暗紫褐色で白い斑模様がある。貝殻はないが貝の仲間。卵は細長いひも状で「ウシソウメン」とも呼ばれる。



◀体長15cm▶

### フレリトゲアメフラシ

全体に淡褐色で柔らかい樹上の突起が体の全面を覆い、その隙間には鮮やかなるり色の斑紋がたくさんある。



◀体長8cm▶

### クロシタナシウミウシ

岩場や岸壁にすむ。全身は黒く、外とう膜の周縁だけわずかに黄色をしている。背中は棘などはなくすべすべしている。

## カニの仲間



◀甲幅3cm▶

### イソガニ

日本の海岸で岩や、石の下によく見られる。甲は角が丸く幅がせまい台形で背側に少しふくらみがある。オスの鎌の付け根に袋がある。干潟でも護岸の隙間などに見つけることができる。



◀甲幅6.5cm▶

### ガザミの仲間

ワタリガニ科のカニで甲はイソガニよりも横に長く表面は平らでなめらか。一番下の脚はオールのような形をしている。ハサミは力が強く、はさまれたら危険なので見つけても触らないこと。



◀甲幅8cm▶

### イシガニ

ワタリガニ科のカニで甲がやや横長で表面に光沢を持ち、腹が一様に白。磯場や干潟の石が多い場所にいることもある。一番下の脚はオールのような形をしている。ハサミの力が強いので見つけても触らないこと。

## その他の動物



◀足盤径1cm▶

### タテジマイソゴンチャク

日本各地の磯場の岩の上の小さなくぼみにみられる。一般的には縦縞があり体表はなめらか。体には多数の穴があり刺激を与えると糸を出す。



◀体長10cm▶

### エボヤ

岩や桟橋などにくっついている。表面にはわがよっている。出水管と入水管がある。



◀体長10~15cm▶

### ミズクラゲ

浜辺でよく見られるクラゲで冬から夏にかけて出現する。半透明で体が透けて見える。体の95%以上が水分。内湾域で大発生することがある。



◀体長10~15cm▶

### アカクラゲ

冬から初夏にかけて海岸でよく見られるクラゲ。雨傘のような16本の赤褐色のしま模様がある。触手は強い毒性を持っているので見つけても触らないこと。



◀体長3~5cm▶

### フナムシ

岸壁などに群れをなして住み着いている。夜は波の当たらない岩や枯葉の下で休み、日中は波打ち際で岩に付着している藻類などを食べる。

## 海藻の仲間



### アオサ

東扇島人工海浜では夏から秋にかけて大量に繁茂し、砂浜や海中で見つけることができる。



### オゴノリ

護岸や岩の上に付着していることが多く、特に湾の中では群生している。かなり密に羽根状に枝分かれしている。

## 魚



### ナベカ

岩の穴や貝の中で主に初夏によく見かける。黄色っぽい体色で、体に黒い横縞模様がある。